



# 後援会だより 第18号

発行 和泉短期大学後援会会長 雑賀えり子  
電話 042-754-1133 (和泉短期大学)



## 相模原の地へ移転後、半世紀を振り返り「今」思うこと

和泉短期大学 特任教授 武石 宣子

Profile

学校法人和泉短期大学児童福祉学科 特任教授  
学校法人和泉短期大学 理事  
学校法人和泉短期大学 内部監査室長  
社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 理事長  
社会福祉法人さがみ愛育会 理事 etc.  
専門: リトミック・音楽表現・音楽療法・身体表現

毎年当たり前のように、和泉クラーク・ホールで行われている入学式・卒業式は、移転直後しばらく相模原市民会館をお借りして行われていました。相模原市役所に隣接されており当時、館盛静光市長には度々式に御臨席いただきました。

それに続く新入生オリエンテーションは、1、2年合同(約850名)で箱根小涌園を会場に二泊三日で行われていたこともありました。1年生に対する通常のオリエンテーションはともかく、2年生と教職員が準備した新入生歓迎イベントもプラスされ、今では考えられないほど多彩なプログラムが用意されていました。スポーツ大会あり、夜にはキャンドルファイヤーあり、白いペールに覆われた夜の女王がローソクの灯る中、厳かに登場し最大限盛り上がりました。その後1年生のみでの新入生オリエンテーションとなりましたが、学外の東山荘や天城山荘を会場に行われていました。

「いずみ祭」今では土曜日一日開催ですが、以前は土、日開催しかも前夜祭・後夜祭もありそれは盛会でした。特に思い出されるのは前夜祭のはじまる前、相模原市民会館から和泉の正門まで有志による仮装行列はあっかんでした。私も何度か歩いて参加いたしました。なつかしい思い出の一つです。

2号館現研究棟は、地方学生の寮として建てられました。日本で唯一の児童福祉学科単科短期大学の和泉には全国から学生が集まってきました。施設保育士養成からはじまった和泉、特に施設実習は全国各地の施設で行われていました。今でも日本中の施設には和泉の卒業生が大勢活躍しています。

今では体育館裏に和泉保育園がありますが、移転直後の翌年現2号館研究棟横に建てられました。当時でもめずらしい保育観察室が設置され、学生は現場実習前には観察室から保育の様子を見学しながら勉学に励んでいました。

チャペルアワーは和泉クラーク・ホール建立以前、本館206教室(現ML教室+大会議室を併せた大教室)で行われていました。特にクリスマス礼拝では、全学生・教職員で「ハレルヤ」を合唱していたことが思い出されます。

まだまだなつかしいことがたくさん、走馬灯のように目の前を過ぎります。

私は今年度をもって49年奉職した和泉の教員生活を卒業いたします。和泉と共に歩んだ時を大切に、今後の発展を見守り続けます。

## ご存知ですか 学びなおし の支援

社会人学生を募集しています

和泉短期大学は「教育訓練給付制度」(専門実践教育訓練給付金)の支援対象講座として厚生労働大臣より指定を受けています。

和泉短期大学社会人入試



【発信元】広報渉外ユニット

保育士、幼稚園教諭2種免許状取得をめざしませんか! 和泉短期大学が学びの場になります。公的給付、長期履修制度など支援がありますよ~

後援会は周知活動をお手伝いします!

# 和泉短期大学後援会 第 18 期 総会のご報告

2025 年 6 月 21 日(土) 14 時開催

和泉短期大学理事長 須田 拓 様  
 和泉短期大学副学長 大下 聖治 様  
 和泉短期大学 父母会会長 北嶋加代子 様  
 和泉短期大学 同窓会会長 川井 赴彦 様  
 ご臨席を賜りました。



須田理事長 大下副学長 北嶋会長 川井会長

## 和泉短期大学後援会 記念講演

講師：和泉短期大学 星 早織先生  
 タイトル 『地域とのつながりで育つ未来の保育者』

Profile

和泉短期大学 児童福祉学科卒業  
 明星大学大学院教育学専攻 博士課程前期修了(教育学)公立保育所保育士として 12 年  
 従事し現職。社会福祉士社会的活動:世田谷区教育委員会 実践充実コーディネーター事  
 業 講師 等 専門領域:保育学、子育て支援



星 早織先生



### 総会・講演会を通しての感想

- ♥人と多くふれあう事により、人の為に何かをしたいと考え保育士や教師等を目指す方が増えるのではと思いました。体験の機会を多く作って欲しいです。久松さん
- ♥近年保育士不足が叫ばれている中、保育を志す学生も著しく減少している事に驚かされました。担っている地域活動の中で保育の魅力を色々な世代に伝えて行きたいです。川口さん

2025 年度収支予算 自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日

#### 収入の部

科目	金額	備考
I. 会費収入		
年会費 (新卒業生父母)	90,000	3,000 × 30 名
年会費 (既卒業生父母)	36,000	3,000 × 12 名
年会費 (大学関係者)	33,000	3,000 × 11 名
年会費 (その他)	3,000	
II. 特別収入	0	
III. 前年度繰越	232,257	
合計	394,257	

#### 支出の部

科目	金額	備考
I. 通常総会日	10,000	講師謝礼
	1,000	
II. 事業費	150,000	学生支援 (飲料) 職場訪問土産代
III. 宣伝広告費	45,000	後援会日より印刷代 入学・卒業式 花代
IV. 通信費	20,000	
V. 事務経費	5,000	
VI. 会議費	0	
VII. 学園祭模擬店費	0	
VIII. 予備費	20,000	
IX. 愛のいずみ基金	50,000	
X. 記念事業積立金	0	
XI. 次期繰越金	93,257	
合計	394,257	

### ～児童福祉系短期大学の窮状～

現在、児童福祉系短期大学が大変な危機に直面しています。

コロナ禍以降、学生の新入生の急激な減少による定員割れに歯止めがかかりません。この状況はわが短大のみならず全国的な現象で、軒並み入学希望者が激減し、定員割れを余儀なくされている状況です。日経新聞によると、財政悪化により 3 年以内に全国で 50 校が募集停止(又は廃校)になると予測されています。要因としては著しい少子化と 4 年制大学への進学希望者の増加が挙げられます。

さらに保育所における事故・事件や、激務のわりに低処遇の報道など、メディアによる保育士のイメージ悪化も要因の一つと考えられます。また、学生が保育士を希望しても、親が反対するケースもままあるようです。このまま推移すると保育士や介護福祉士といったエッセンシャルワーカーの不足が深刻化する恐れがあります。これは子育てや女性活躍推進における重大なインフラの損壊に繋がります。少子化といっても神奈川県下における乳幼児の減少は他県に比べて穏やかであり、就業を希望するママさんの増加により、ますます保育が必要となることが推測されます。これらのことを鑑みると、この危機は単に一大学の問題ではなく、地域を含めた国家的な対策が必須であると考えます。和泉短大もこのような厳しい状況下において、自治体と協議したり、近隣の中・高校に赴き、保育者の重要性をレクしたりと、理事長先生はじめ職員の皆様が一丸となって取り組まれております。ただ残念ながら即効性のある抜本的な解決には至っておりません。行政や自治体に働き掛ける地道な対策は必須ですが、後援会の皆様にはぜひこの窮状を心に留めていただき、お子様、ご親戚の学生さん、お知り合いのご子息に、保育の重要性と素晴らしさを訴えていただき、保育士の道を勧めていただけましたら幸甚の極みと存じます。

後援会、同窓会、父母会の 3 団体は今までも様々な物品等を大学に寄贈しご支援させていただきましたが、このような働きかけも大きな支援に繋がると確信いたしますので、何卒皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(篠原 記)



学祭前ドリンク配布 10 月 24 日  
 ☆伊藤園ミネラル麦茶 5 ケース  
 ☆コココーラ綾鷹 5 ケース  
 ☆伊藤園おーいお茶 4 ケース

## 見学訪問企画 伊勢原市

# 児童発達支援センター おおきな樹

児童発達支援事業 2019年7月開所  
定員30名 発達に心配のあるお子さん  
～6歳までの未就学児  
通所事業所 伊勢原市内対象  
平日8:30～17:15まで(土日祝 休み)

後援会役員メンバー(和泉短大卒業生)が勤務されているということで、2025年7月に見学させていただきました。

伊勢原駅から徒歩で行ける場所に伊勢原市の委託を受けて開所され、もともと市立保育園だった建物を譲り受けたので、かわいい造りになっていました。ちょうどプール水遊びで職員さんも大忙しのところでした。なにかこだわりがあったり、不安定だったりするお子さんそれぞれに寄り添って対応してらっしゃる様子が印象的でした。お子さんの発達支援だけでなく、保護者の支援も重視しているとのこと。また、卒業後、地域の幼稚園・小学校などへ移行するのですが、円滑に進めるように移行先とも連携やサポートをしているそうです。

法人(特定非営利活動法人リオフィールド)としては、先に(小学生以上の)放課後等デイサービス「めだかくらぶ」が市内別場所にあり、その関連からこちらを新設。そのあと児童発達支援「くるみ」、相談支援事業所「みなも相談室」も開設されているということで、お子さんや保護者に必要な事業を展開しているなと思いました。

暑い中、説明してくださったり、各部屋を見せていただいたりお世話になりました施設長の小木淳一様、職員の方々に感謝いたします。(雑賀 記)



おおきな樹内部



### 「見えない障がい」と向き合う 潮田健治

和泉短期大学後援会事業の一環で、伊勢原市にある、児童発達支援センターを訪問しました。前年は視覚に障がいを持つ子どもたちへの支援学校を訪問しましたが、今年は発達障がいという「見えない障がい」を持つ子どもを、社会が受け入れる姿に触れる、貴重な体験となりました。

同行した妻は、50年前、私立幼稚園の教諭時代に「統合保育」を経験したことがあります。今回は統合保育との違いを見ながら、見学させていただきました。統合保育の大きなメリットは、障がいを持つ子どもが同世代の子どもや多くの大人と関わり、社会で過ごす機会を得られることですが、デメリットとしては、保育士が持つ障がいの知識やスキルが保育を左右することでしょう。その点、こちらのセンターは、伊勢原市の支援を受けながら、保育士たちは専門の知識とスキルをもって十分に障がいを持つ子どもと向き合う体制ができています。

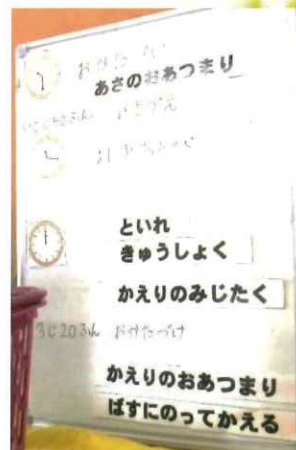
心に残った第一のことは、親御さんが自分の子どもの状態を正しく認識できるかどうかが大変だという点でした。障がいを認めたくないという気持ちから、親としては普通の園に通わせたいのですが、その親の気持ちは、時として子どものためにはならないわけです。親が納得し、子どもに一番必要な療育をする、そのための道筋と、施設が整っていることは、すばらしいことでした。

第二は、一般の園はクラス運営に焦点が絞られますが、こちらのセンターではクラス運営ではなく、障がいを持つ一人一人がとても大切だと受け止める場所に焦点が当てられる、ということでした。そのための人材も整っています。発達障がいは、「見えない障がい」と言われるそうです。この、見えない障がいと向き合う施設長以下、献身的に働く保育士の皆さんの熱心な姿にリスペクトした訪問でした。

聖書 マルコによる福音書 10章 14節「子どもたちを私のところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」



おおきな樹駐車場



# 能登震災豪雨視察

## ～金沢と能登半島を巡る視察旅～

2025年9月15日/16日 和泉短期大学後援会有志



### 「能登半島震災視察旅行」 平塚 豊

後援会の被災地ツアーに参加しました。私としては数十年ぶりに訪れた石川県です。北陸新幹線には初乗車、世界で最も美しい駅の一つに選ばれた新しい金沢駅も初めてで、その威容と鼓門の豪華さに圧倒されました。初日に訪れた近江町市場、ひがし茶屋街、兼六園は海外からの観光客も多く、北陸の表玄関にふさわしい名所を堪能しました。

翌日は、金沢市街から能登半島を北上、レンタカーで約 100 km離れた輪島を目指しました。昨年の大地震と豪雨災害を受けた輪島の町と日本基督教団輪島教会を訪れるためです。金沢と輪島を結ぶ「能登里山街道」は、時折左に日本海、右に七尾湾を望みながら山間を走る風光明媚な自動車専用道路。最初は片側二車線の快適な滑り出しでしたが、金沢を抜けると車線が減少、路面は波うち、崖ののり面が崩落するなどして、途中の 4 か所は交互通行になっていました。赤信号で止まると復興のための資材を乗せたトラックが対向車線を通り過ぎて行き、結局輪島まで 3 時間を要しました。そして、街なかには傾いた電柱とブルーシートで覆われた屋根、ところどころにつぶれて手つかずのまま残っている家屋、その光景は私の想像をはるかに超えるものでした。

市の中心部に位置する輪島教会の新藤豪（つよし）牧師から、災害の当日や復興の様子を伺いました。実は、新藤氏は阪神淡路大震災も経験されていて、淡々と話すその姿には、すべてを受け入れて前に進もうとする強い意志を感じました。半島の地形が復興を阻んでいて、解体業者も宿舎に泊まり込みで作業を続けている。先生のご自宅も翌々日から解体が始まるとのこと。現状を目の当たりにして、一日も早い復興を願わずにはられませんでした。

「現地立つこと」がどれほど大きいことかと、木村治男前会長が東日本大震災のツアーで報告されていましたが、私も今回の経験を通じて、その大切さを再認識しました。同行した皆様と今回のツアーを計画し、悪路を運転して下さった篠原俊正副会長に感謝を申し上げます。



輪島朝市(仮)



新藤牧師

### 能登半島震災視察旅行に参加して

大森英夫

金沢から輪島市までは約 120km、普通なら車で 1 時間半の道のりだが、3 時間もかかった。その理由は、道路の陥没やのり面崩落の復旧工事で片側交互通行が数多くあったのと、輪島市に近づくほど道路が大きく波打ち、車が上下に振られてスピードを控えなければならなかったからである。

市内は車窓から見る限り目立った倒壊家屋はなかったが、学校の校庭に並ぶ避難家屋や、朝市跡地には真っ平らな空地の広がり、斜めに傾いた電柱が立ち並ぶ道路が震災の傷あとの大きさを物語っていて、被災されて 2 年近く経つのに、まだ、街の賑わいは感じられなかった。

こんな情景に落ち込んでいた気持ちを振り払ってくれたのが、輪島教会の新藤牧師との出会いであった。阪神淡路震災に続く二度目の教会倒壊にも拘わらず、満面の笑顔で今後の展望を語るその前向きな姿勢に私達の方が励まされてしまった。



教会内部と牧師



仮教会前で

輪島での訪問教会 (輪島市河井町)  
日本基督教団 輪島教会 新藤豪牧師  
(2025年9/16 状況)

- \* 被災により、その礼拝堂は取り壊されて更地に、牧師館は私たちの訪問三日後に取り壊しと聞きました。
- \* 10人も入れれば一杯のユニットハウス(プレハブ)で礼拝をしています。
- \* 昔、当時の牧師夫人が妻の高校時代の友人であり礼拝堂に 2 泊させてもらった関係で、輪島での訪問先に推薦しました。(記 潮田健治)



輪島朝市跡



斜めの電信柱



教会の案内板